



第22号
校長 久高利美子

「無理」という言葉に負けない

第三十九回名護市少年の主張大会へ本校代表として、2年生の崎原心美さんが出場しました。本校のみんなに考えてほしい主張だと思っています。紹介します。

「こんな無理」で生きるわけないし「みなさんはこんな言葉を使ったことありませんか。私のクラスでは学校生活のいろいろな場面でよくこんな声が聞こえてきます。私自身も苦手な教科や難しい問題が出たときなど「言っちゃってしまつて」とあります。あまり深い気持ちはなく、ただ口癖のよう「言っている部分もあるかもしれない。けれども、「無理」と「出す」ことで、挑戦する気持ちもなくなる、頑張ればできることもできなくなってしまうような気がします。自分で自分の限界をしっかりと覚えておくのもいいかもしれません。

では、なぜこんな発言をしてしまつたのでしょうか。きっと自分自身で「言っちゃってしまつた」と思っています。「みなさん、自分自身が「言っちゃってしまつた」と聞かせて、自分の苦手なことややりたくないことばかりに「言っちゃってしまつた」と思ってしまうのでしょうか。やる前から諦めていたら何も始めることはできませんし、何も実現するものはできません。まずは挑戦する、それが大事だと思います。曾祖父は人生

私には今年で百三歳になる曾祖父がいます。曾祖父は人生

の楽しみを広げるために七十歳からゴルフを始めたそうです。そして九十九歳になるまでゴルフを続け、大会にも出場してたくさん賞やメダルをもらったそうです。今は「ゴルフこそやっていませんが、まだまだ元気に過ごしています。曾祖父を見てみると、人は気持ち次第で何でもやれる、そう思うのです。もし、曾祖父が「ゴルフをやってみたいけれど、この年じゃ無理かなあ。」などと思っていたら、「ゴルフなんて始めなかつたことでしょう。そんなことを少しも思わなかつたからこそ今の元気な曾祖父がいるのだと思います。私は曾祖父のことを誇りに思います。そして私も曾祖父のよう、「どんな時でも最後まで諦めずに何事にも挑戦できる人になりたい」と思っています。

でも、今の私は苦手なことがあると「無理」という言葉で逃げ、しつかり向き合おうとがんばりません。では、どうしたら曾祖父のよう何事にも挑戦できる人になれるのでしょうか。私達は「無理」という言葉で苦手なことから逃げています。まず、その言葉を変えれば自分を変えられるかもしれません。すぐに始められるのは「無理」という言葉を使わないことだと思います。そのかわり「無理」ということにならうと、「よし、頑張ろう」と「言っちゃってしまつた」ともやりやる気が出て、集中して取り組むことができそうです。口に出す言葉一つで気持ちが変わることを実感しました。そして、それを周りにも広げていきたいと思っています。せっかくな

る気を出しても周りから「無理だろ」で生きるわけないし」と言われたら途端にやる気をなくしてしまします。「無理」という言葉は人のやる気も奪ってしまうのです。もし、クラスの中で「無理」という言葉が減り、「頑張ろう」という言葉が増えたら、クラスの雰囲気も良くなっていくのではないでしょうか。そしてクラスみんなでいろいろなことに前向きに挑戦できたらみんな成長していけると思います。

みなさんも「無理」と言いたくなるときは言い換えてみませんか。
「よし、頑張ろう。」と。



クリーン大会で教室はぴかぴかに！

学期の終わりには全校生徒で教室、廊下を磨きます。毎日の黙動清掃にきちんと取り組んでいる本校の生徒たち、クリーン大会の17日6校時は特に念入りに汚れを落としました。校舎に感謝の気持ちを込めて！ お疲れ様でした。